



『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

WEEKLY NEWS

---

◆繊維：プライムポリマーがガラス長繊維強化ポリプロピレンの生産設備新設を発表(5月22日)

三井化学と出光興産の合弁会社であるプライムポリマーは、ガラス長繊維強化ポリプロピレン(GFPP)「モストロン-L」の生産設備を新設すると発表した。新設場所はプライムポリマー姉崎工場(千葉県)、新設備能力は3,500トン/年、2019年9月に営業運転を開始する予定である。

モストロン-Lは、プライムポリマーが開発した、繊維状のガラスとポリプロピレン樹脂を溶融・混練して得られる複合材料である。軽量で、ガラス繊維が長いことによる剛性や耐衝撃性のバランスに優れていることに加え、外観性が良いことから、無塗装による自動車向けバックドアインナー等に採用されている。

昨今の環境規制の強化やEV化の進展を背景に、更なる自動車の軽量化が求められ、金属の代替が可能な素材の一つとして、繊維強化樹脂の需要は増加が見込まれており、モストロン-Lの自社製造技術を確立し量産化を図るとしている。

◆ガス：エア・ウォーターグループの日本ヘリウムがヘリウムガスを充填する新工場を竣工(5月22日)

エア・ウォーターグループの日本ヘリウムは、神奈川県川崎市にヘリウムガスを充填する新工場を建設し竣工したと発表した。

光ファイバーや半導体、液晶パネルの製造、医療用MRIに欠かせないヘリウムは、大気中に含まれる量が極めて少なく、米国をはじめ世界数カ所の天然ガス田からしか産出できない。日本ヘリウムは、コンテナで輸入した液体ヘリウムを小分け充填し、全国の産業・医療分野へ安定供給しており、販売数量では、国内のヘリウム業界で第3位のポジションにある。

新工場では、同社が独自に設計開発したガス回収システムを導入することで、従来のロスを大幅に削減し製造量の増加を実現するとともに、液体ヘリウムの納期短縮などにより競争力のある製品を市場に供給できる。また新工場の稼働に合わせて、新たにキセノンなどのレアガスを小分け充填する設備を導入

し、高付加価値な製品を市場に供給していく。

新工場の生産品目は液体ヘリウム、圧縮ヘリウムガス、ヘリウム混合ガス、キセノンガス、クリプトンガス、ネオンガスで、投資規模は約 11 億円としている。

◆樹脂：三洋化成工業が制御ラジカル重合法を適用した高吸水性樹脂の工業化に成功（5月21日）

三洋化成工業の連結子会社であるSDPグローバルは、株式会社合同資源と共同で、紙おむつなどに使用される高吸水性樹脂（以下、SAP）の製造に制御ラジカル重合法を適用し、工業化することに成功したことを発表した。

ポリアクリル酸系SAPの製造法は、モノマーであるアクリル酸（塩）と架橋剤を水溶液中でフリーラジカル架橋重合する水溶液重合が一般的である。一般に、フリーラジカル架橋重合で得られたポリマーの架橋構造（網目構造）は不均一であることが知られており、それがSAPの吸水性能を阻害していると考えられている。同社では、有機ヨウ素化合物を用いることで従来の課題が克服できると考え、合同資源と共同で制御ラジカル重合技術を適用したSAPの工業化に成功した。

本製造法で得られたポリアクリル酸系SAPは、従来の製造法で製造したものに比べて網目構造が均一化しており、吸水性能を大幅に向上することができると見られる。また、表面架橋技術などの従来技術と組み合わせることでSAP設計の自由度が高まり、さらなる高機能化が実現できるとしている。

◆殺菌剤：石原産業が新規殺菌剤「ケンジャフロアブル」を上市（5月21日）

石原産業は、新規殺菌剤「ケンジャフロアブル」（一般名：イソフェタミド）の販売を、5月22日に石原バイオサイエンスを通じて開始することを発表した。

有効成分イソフェタミドは、同社が独自に開発したミトコンドリア電子伝達系のコハク酸脱水素酵素を阻害する新規殺菌剤（SDHI剤）である。本剤は、子のう菌類、不完全菌類、特に灰色かび病菌、菌核病に対する高い予防効果を示し、既存SDHI剤の耐性菌にも高い効果を示す。また、浸透性、残効性、耐雨性を有し、圃場において病原菌密度を低下させる効果があり、有用生物や天敵、適用作物に対する高い安全性を示すことから、IPM防除場面や、既存剤に対する耐性菌が発達した圃場におけるローテーション防除の基幹剤として大きく貢献できるものと期待されている。

同社は米国、カナダ、メキシコ、フランス、韓国で本剤の登録を取得、さらに、欧州各国、ブラジル、オセアニア、中国、台湾等、各地域でも積極的に開発・登録を進めていくとしている。

◆産学提携:エア・ウォーターが室蘭工業大学との包括連携研究協定等に関する協定を締結(5月21日)

エア・ウォーターと室蘭工業大学は、北海道における農業・食品のイノベーションを創出する技術等の開発を目的とした「包括連携研究協定等に関する協定」を締結したと発表した。

本協定は、大学内の複数の研究室が取り組む全学を挙げた研究シーズとエア・ウォーターが日々の事業展開から必要としている技術ニーズを組み合わせるといった包括的な産学連携となる。

今後は、共同研究として3テーマ(①機能性成分定量分析法の研究開発とデータベース構築 ②加工用原料野菜の生産技術の研究開発 ③施設栽培でのAIによる基盤整備技術)の設定を協議した上で、研究者の交流や派遣を行い、成果の創出につながる本格的な研究・開発に取り組んでいく。

本協定を締結することで、それぞれが蓄積してきた研究開発の知見や事業ニーズを統合し、北海道の基幹産業である農業・食品分野の発展に寄与する研究開発を目指すとしている。

◆建材:アキレスが農畜産用断熱材の新製品を発売(5月21日)

アキレスは、農畜産用断熱材「アキレストリトンシリーズ」の新製品として、室内側表面材に樹脂複合シートを採用し、さびに強く高圧洗浄が可能な「トリトンレボ-P(壁用)」を、6月1日から全国で発売すると発表した。

「トリトンレボ-P(壁用)」は、同社の「トリトンレボ-P(天井用)」をベースにし、かん合部構造を改良した壁仕様に適した断熱パネルである。「トリトンレボ-P(天井用)」と同様、室内側表面材に樹脂複合シートを採用することで、家畜の糞尿から発生するアンモニアによるさびを防ぐことを可能にした。また、高圧洗浄時にも破れにくく、畜舎内の衛生管理が容易にできる。さらに屋外側表面材には55%アルミ亜鉛合金めっき鋼板を採用しているため、張り付けるだけで内外装兼用となり、ビス・くぎ頭が隠れる独自のかん合部構造でさびを防止し、外装材としての耐久性に優れる。

既存のトリトンシリーズ同様、特に夏の暑さによる「ヒートストレス」の軽減により、家畜の成長を促し育成率・生産性の向上や飼料コストの削減が期待できるとしている。

◆価格改定

・クレハが次亜塩素酸ソーダを6月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、7円/kg以上

・昭和電工が酢酸および酢酸ビニルを6月16日出荷分より値上げ

- 値上げ幅は、酢酸:20 円/kg、酢酸ビニル:15 円/kg
- ・タキロンシーアイ化成が採光建材製品を7月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、15%以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

- ◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。
- ◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

